『三田商学研究学生論文集』執筆要項

2026 年 7 月 21 日

慶應義塾大学
商学会委員会

『三田商学研究学生論文集』へ投稿する際は，論文の Word 形式と PDF 形式の 2 つのファイルを，応募への返信メールで指定される **Google form の提出窓口より提出**してください。応募手続きを事前に完了できていない場合，論文を提出することはできません。なお，論文を作成する際には，下記の要件に従い，タイトル・要約・キーワード・本文・図表・参考文献を含めて，論文全体を **18 ページ以内**に必ず収めてください。これらの要件を満たしていない場合には，即時に採択不可とすることがありうるので，十分に注意してください。

1. 表記

- 新仮名遣い，新字体，当用漢字使用を原則としてください。
- **句読点は，全角カンマ（，）とマル（。）を使用**してください。
- 傍点は，該当する文字の上に打ってください。
- 日本語の文章では，クォーテーション・マーク（‘ ’“ ”）ではなく，かぎ括弧（「 」『 』）を使用し，後述する本文中での引用などの**一部の例外を除き，原則として全角文字を使用**してください。

2. 書式

（1）レイアウト

- サイズ　A4 判
  ※出来上がる雑誌は B5 判ですが，A4 判での設定を記してありますので，A4 判を指定してください。
- 段組み　横一段組み
- ページ設定　余白：上 47mm　下 47mm　右 32mm　左 32mm
  フォント：ＭＳ明朝（日本語用）　Century（英数字用）　9pt（サイズ）
  ※**「ページ設定」内の「フォントの設定」より設定**してください。
  文字数と行数：44 字（文字数）　33 行（行数）
  字送りと行送り：9.4pt（字送り）　17.4pt（行送り）
  ※サイズ・段組・余白・フォント・文字数と行数を上記の通りに設定すれば，9.4pt（字送り）　17.4pt（行送り）となります。

（2）表紙（すべて日本語と英語を併記）

- 論文名　主題：16pt　ＭＳ明朝（英数字は Century）左右中央
  副題：9pt　ＭＳ明朝（英数字は Century）左右中央
  ※上 4 行・下 2 行をあけてください。
- 執筆者名・所属　10pt　ＭＳ明朝（英数字は Century）　右寄せ　右 1 字下げ
  ※下 2 行をあけてください。
  ※所属には，大学・学部・学年，入会していれば研究会名（商学部ウェブサイト「研究会（ゼミナール）紹介」の「研究会一覧」に掲載されている研究会名）を記載してください。。
  ※審査の中立性・公平性の観点から，投稿や修正段階の原稿に執筆者氏名や謝辞，執筆者を特定できるその他情報を記載しないでください。**執筆者氏名や謝辞は，審査に合格した後に提出する最終原稿にのみに記載**してください。
- 要約　8.5pt　ＭＳ明朝（英数字は Century）左 3 字下げ　行送り 14pt
  日本語要約：300 字以内　英語要約：120 words 以内
- キーワード　8.5pt　ＭＳ明朝（英数字は Century）左 3 字下げ　行送り 14pt　10 個以内

（3）見出し

・ 大見出し　10pt　ＭＳ明朝（英数字は Century）左寄せ　１．　２．･･･を使用
※上 2 行・下 1 行をあけてください。
・ 中見出し　9pt　ＭＳ明朝（英数字は Century）左寄せ　（１）　（２）･･･を使用
※上 1 行をあけてください。
・ 小見出し　9pt　ＭＳゴシック（英数字は Century）1 字下げ　1）　2）･･･を使用
※上との間はあけないでください。
・ 注　8pt　ＭＳ明朝（英数字は Century）　1 字下げ　2 行目からは 2 字下げ　行送り 10pt
※本文中の該当箇所の右肩に通し番号を Word の「脚注」機能を用いて作成し，該当ページに脚注として挿入してください。

（4）本文中での引用
・ 本文中で参考文献を引用する場合には，「伊丹（1980)」「Porter (1981)」のように，著者の姓に続けた半角括弧内に年号を半角アラビア数字で記入してください。このとき，「（」の前と「）」の後ろに半角スペースを入れてください。
・ 著者が 2 名の場合は「竹内・野中（1993)」「Pfeffer & Salancik (1978)」のように連記してください。
・ 著者が 3 名以上の場合には，初回の引用から「沼上ほか（1992)」「Rumelt et al. (1994)」のように，第一著者に続けて「ほか」（日本語文献の場合），「et al.」（英語文献の場合）を用いてください。
・ 括弧内の記述については，「…については明らかにされている（Porter, 1981; 伊丹, 1980)。」のように，英語文献と日本語文献を分けて（英語文献の後に日本語文献を記載），著者名と年号をカンマで区切ってまとめ，第一著者のアルファベット順（日本語文献は五十音順）に各文献をセミコロンで区切って記載してください。なお，同一著者の文献が複数ある場合は，発行年順にカンマで区切って記載してください。

（5）参考文献
・ 対象　参考文献に記載する文献は，本文の適切な箇所で引用し，**本文中で引用した文献のみを文末にまとめて記載**してください。
・ 表記　8pt　ＭＳ明朝　1 字下げ（2 行目からは 3 字下げ）行送り 14pt
※著者名と出版年は，著者の姓名に続けた半角括弧内に年号を半角アラビア数字で記入してください。このとき，「（」の前に半角スペースを入れてください。なお，タイトル・ページ数などの文献情報の記載方法は，書籍，分担執筆論文，雑誌論文，雑誌・新聞記事，ウェブサイトといった文献の類型ごとに異なるので，詳しくは下記を参照してください。

≪書籍≫

伊丹敬之（1980)『経営戦略の論理』日本経済新聞出版.

Pfeffer, J., & Salancik, G. (1978). *The external control of organizations: A resource dependence perspective*. Harper & Row.

* 書籍名は，日本語文献は『』で囲み，英語文献はイタリックで表記してください。

≪分担執筆論文≫

竹内弘高・野中郁次郎（1993)「製品開発プロセスのマネジメント」伊丹敬之・加護野忠男・伊藤元重（編）『リーディングス　日本の企業システム 2　組織と戦略』(pp. 146-183), 有斐閣.

Rumelt, R. P., Schendel, D., & Teece, D. J. (1994). Fundamental issues in strategy. In R. P. Rumelt, D. Schendel, & D. J. Teece (Eds.), *Fundamental issues in strategy: A research agenda*. (pp. 9-47). Harvard Business School Press.

* 論文名は，日本語文献のみ「」で囲み，書籍名は，日本語文献は『』で囲み，英語文献はイタリックで表記してください。

≪雑誌論文≫

沼上幹・浅羽茂・新宅純二郎・網倉久永（1992)「対話としての競争―電卓産業における競争行動の再解釈―」『組織科学』26 (2), 64-79.

Porter, M. E. (1981). The contributions of industrial organization to strategic management. *Academy of Management Review*, 6(4), 609-620.

* 論文名は，日本語文献のみ「」で囲み，雑誌名は，日本語文献は『』で囲み，英語文献はイタリックで表記してください。

≪雑誌・新聞記事≫

青島矢一（2026）「イノベーション実現の条件（中）探索投資，支える体制を」『日本経済新聞』2026 年 1 月 15 日，朝刊，p. 29.

日本経済新聞（2026）「日本関連のM&A，９割増で最高　昨年度４３兆円　海外で大型買収増加」2026 年 4 月 23 日，朝刊，p. 10.

* 署名（著者名・記者名等）がない場合は，出版物名を著者名として記載してください。

≪ウェブサイト≫

慶應義塾情報センター（2026）「慶應義塾における生成 AI の利用ガイドライン」（最終更新日：2026 年 3 月 11 日）https://www.itc.keio.ac.jp/ja/software_ai_guideline.html（最終閲覧日：2026 年 7 月 21 日）

* 最終閲覧日を記載してください。

・　順序　　英語文献と日本語文献を区別し，**英語文献を著者名のアルファベット順で先に記載したあとに，日本語文献を著者名の五十音順で記載**してください。文献の類型ごとに分けて記載しないようにしてください。

（6）図表

・　タイトル　　9pt　ＭＳゴシック　左右中央　図表の上に記載
・　図表番号　　図と表は分けて通し番号を付してください。
・　出所等　　出所等の記載が必要な場合には，図表の下に 8pt で入れてください。
・　挿入箇所　　図表は論文の該当ページ付近に挿入してください。
・　画像設定　　印刷に耐えうる解像度のものとしてください。
・　カラー　　雑誌はモノクロで印刷されることを念頭に図表を作成してください。

3. 見本フォーマット

慶應義塾大学商学会のウェブサイトに，「2. 書式」に従って設定されている Word ファイルがアップロードされているので（要 keio.jp 認証），見本として入力・挿入されている文字・図を削除するなど適宜修正を加えたうえで活用してください。なお，他のファイルで作成した文章を貼り付ける場合には，Word の「テキストのみ保持」や「書式を結合（スタイルを合わせる）」といった貼り付けオプションを利用して，貼り付け元の書式が貼り付け先の書式に反映されないように（見本フォーマットの書式が上書きされないように）注意してください。

4. AI（人工知能）ツールの使用について

『三田商学研究学生論文集』は，著者自身の創造的かつ批判的思考を重視しているため，投稿論文は，著者自身が作成したものでなければならず，AI（人工知能）ツールによる成果物であってはなりません。とりわけ，AI ツールを論文レビューの手助けとして使用することはご遠慮ください。引用文献は全て，必ず著者自身がその原著をお読みください。AI ツールの使用は，プログラム，スペル，あるいは文法等の校正にのみ使用してもかまいません。その場合であっても，AI からのアウトカムをそのまま使用することはご遠慮願います。また，AI ツールを論文の著者として記載することはできません。AI ツールを使用した場合には，提出用 Google Form の該当欄に，ツール名と使用箇所について言及してください。

5. その他

『三田商学研究 学生論文集』に掲載された論文については，慶應義塾大学学術情報リポジトリ（KOARA）で公表されます。審査を通過し掲載される場合は，出版許諾書へのご署名をお願いすることをあらかじめご了承ください。なお，許諾内容に虚偽が判明した場合には，公開後であっても論文の撤回措置が取られる可能性がありますので，注意してください。